

神経伝導検査と筋電図を学ぶ人のために [DVD-ROM 付] 第2版

木村 淳, 幸原伸夫 ● 著

大勝病院副院長・神経内科／前・鹿児島大准教授・神経内科学 有村公良

『神経伝導検査と筋電図を学ぶ人のために』は、臨床神経生理の基礎から診断までの道筋を系統的に初心者にもわかりやすく説明した名著で、神経筋疾患の神経生理検査・診断を行う医師、検査技師にとっては文字通りバイブル的な存在である。今回待望の第2版が木村淳先生、幸原伸夫先生の多大な努力でここに出版された。この第2版は基本的な内容、骨格はもちろん初版と共通しているが、随所に新しい試みが追加されて約100頁の増頁となり、さらに臨床に役立つ魅力的な本となっている。

本書は初版から至る所に初学者の理解を助ける工夫がなされている。第2版にも引き継がれているが、付録のDVD-ROMに針筋電図の実際の記録を収録し、本編で説明を加えるという大胆な試みは、私の知る限り臨床神経生理の分野では本邦初である。筋電図検査の研修はなんといっても波形や発火様式の視覚的な識別と、筋電図の音による聴覚的な識別の両者の訓練ということに尽きる。DVD-ROMには、幸原先生が実際に臨床の場で経験された数多くの異常筋電図が収録されており、初学

者のみならず、ある程度筋電図検査を経験した医師にも貴重な記録である。また臨床神経生理検査をより深く理解するための基本的な解剖・生理学的知識のみならず、工学的な項目もしっかり書かれていることも本書の特徴でもある。さらに末梢神経系だけではなく、筋電図の起源である脊髄前角細胞の発火を制御している運動一次ニューロンの機能を評価する磁気刺激検査にも触れられている。このような内容に幸原先生の臨床神経生理検査を行う医師、臨床検査技師に対する強いメッセージを感じる。

今回の第2版では、さらに理解を深めるための工夫が数多く加えられている。第1に多くの図が追加され、一見難しい病態の理解がより進むように書かれている点である。第2の大きな特徴として、最終目標である電気生理診断に近づくための項目の大幅な追加が目にとまる。まず巻頭に神戸市立医療センター中央市民病院で集積した日本人の神経伝導検査の正常参考値が載せられている。多忙な臨床の場で、正常参考値を収集することがいかに大変かは筆者も身に染みており、この正常参考値はこ



れから広く日本中で用いられよう。高齢化社会の日本において、読者はこのデータを見るとき、特に年齢との関係を見てほしい。そのほかに、検査を行う際に最も重要な末梢神経解剖の追加項目として、現在米国で活躍している野寺裕之先生によるレクチャー形式での腕神経叢の解剖の覚え方が加えられている。電気生理診断を行う際に必須となる神経筋の解剖を読むごとに自然にマスターできるように書かれていることが何より素晴らしい。読者もぜひ記憶にとどめてほしい。

本書はこれから臨床神経生理を学ぼうとする人だけではなく、臨床神経生理の認定医、認定技術師をめざす人にとっても、神経生理検査室など臨床の傍らに置いてほしい大事な1冊である。

B5, 頁440, 2010年

定価9,450円(本体9,000円+税5%)

[ISBN978-4-260-00895-2]

医学書院刊